## アラカルト

住まい げら でした。 から千里 ñ て きまし 王山には、 今までのこの会誌にも、 た。 芸術家や、 にも、たくさん取りその愛好家が多くお

バトンを渡したいと願っているからです。たいと思っておりますので、是非、音楽に明るい方にを提供させていただきます。その本心は、次回も続けから拾い集めた音楽に関する話の要約をまとめたものか回は芸術に暗い私(萩原)がこの数年、新聞や本

## 魂奏でる震災バイオリン

を持つ宗幸氏のお二人は、一昨年の三月十一日以来、楽器の製作や修復をするバイオリン・ドクターの肩書バイオリニスト中澤きみ子さんとその御主人で、弦 ある日 める日、宗幸氏の脳裏に、若いころ欧州で修行中に出「音楽家として何かできないか」と悶々としていた。

> を出すには、 って人 ではないか 0 には、一般的に堅いオリンはどんな木材 々を慰め、 般的 力を与えることができれば」と。 のように流木もバイオリンとな 本当は想い出や歴史の り、次のように思った。

地元 出たのです。 柱や梁だったかもしれない泥水をかぶった松の流木を人は被災の痕も生々しい陸前高田に出向き、かつて床 「驚きました。できたば出来あがったバイオリ の人々と一緒に選び持ち帰 流木が持 木が持っている音がいいのか、不できたばかりにしてはとても良いバイオリンを弾いたきみ子さん緒に選び持ち帰った。 不思議

が、材料を現在のコソボやボスニア周辺の森に求め、ストラディバリは制作の秘密を生涯明かしていないではと密かに思っているのですよ」と宗幸氏。「ぼくはネ、もしかして泥水を被ったのが良かったの「ぼくはネ、もしかして泥水を被ったのが良かったの な力です」という。

たため、 された木々は 名器のカギは水にあるとする研究者も少なく アド リア海からイタリア へと運ばれ

震災バイオリンも大津波を耐え抜いた木だからこそ

音色なの

しいプラ も広がる。 奏会で震災バイ リニスト、 ٢ 「アニスト、宮沢明子さんなど賛同者は今や海外にで震災バイオリンを使用。ほかにもベルギー在住スト、黒沼ユリ子さんは、今年一月の東京での演というのが2人の願いだ。メキシコ在住のバイオ、ロ、アマを問わず多くの人が弾き、リレーして欲

文字通り魂の柱となり音色を奏でるのだ。宗幸氏は目高田のあの1本の松の木が使われることにもなった。バイオリンのサウンド・ボックス(魂柱)には陸前 四重奏の実現も間近い。 下、ビオラとチェロ、子ども用バ イオリンも製作中 で

# ミファソラシドの起源と謎

ってり、但、 ラクシス] レミファソラシドの「シ」は、[Sancte からきている。 ・・クエアント・いる。その音階は Iohannes

tu) queant laxis) V (resonare

> Iohannes)° (Solve polluti) (Mira gestorum) ラ (labii ファ reatum) (famuri tuorum) ( ⇒ (Sancte)

めて下さい、聖ヨハネよ」(『グレゴリア聖歌』より)で称えられるように、どうか彼らの汚れた唇の罪を清でて、あなたの素晴らしいみわざを、和やかな気持ち歌詞の意味は、「あなたのしもべたちが、弦をかきな であるとのこと。

を意味するラテン語、「ドミネ」の「ド」からきている、なぜ「Ut」が「ド」になったかは諸説ある。「主(神)」 ゆくことから、 くことから、音階名として採用したのだという。これら一連の歌詞の最初の音が、順番に高くなっ

修道士グィード・ダレッツィオであるという。 この音名をを採用したのは、 十一世紀のイタリアの

という説が有力である。

用いた旋律の記述法を工夫し、 となる音階を確立したのである。 ダレッツィオは、 **伝を工夫し、音楽を学習する上で基記譜法の発明者であった。音符を** 

も生き続けた。 その方法論がやがて各国で採用され、 千年

ちろん楽譜は長い 年月の間に無数の人々による工

イロハ」と、六番目の音を起点としているのも、ある「CDEFGABC」、昔の日本では「ハニホ夫が重ねられ、今の形に至っている。英語のドレ た工夫の結果であ -レミで そう ^

#### 最初の バイオリン

一五一六年九月十二日、フランソワー世はフォンテー五一六年九月十二日、フランソワー世はフォンテーカとに美しく着飾った二十四人の若い娘が並んで、テオルフ、ルート、ヴィオルなどの楽器を弾奏した。その妙なる調べは一座の貴顕紳士淑女を魅了したが、なの妙なる調べは一座の貴顕紳士淑女を魅了したが、ないが一段と優れ、その席に居合わせたイタリアの画聖いが一段と優れ、その席に居合わせたイタリアの画聖いが一段と優れ、その席に居合わせたイタリアの画聖レオナルド・ダ・ヴィンチをかたく感激させた。ダ・ヴィンチはさっそくその娘を呼んで、ロアール河畔のクルーの邸へ来て欲しい。そなたをモデルにして『音楽』という題の絵を描いて、フランス王の宮殿を飾りたいと申し出た。

で、パリを離れるわけにはいかないと断った。その兄は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽は、ピエトロ・ダルデルリといい、マントヴァの弦楽を値を設造して、パリの名士はこぞってイタリアの楽器を追れ、彼の作品には一顧もくれなかった。ピエトロは失意と貧しさから病を抱え逼塞していた。

感激したピエトロは自分の野心を語った。

できるにちがいないと、設計図まで出して熱心に説明オルとは比べものにならない完全な音色を出すことが4つしかない、新しい楽器を作ろう。それなら、ヴィヴィオルよりももっと短く、もっと真直ぐで、弦が

ダ・プリマヴェラ』の曲を弾かせた。ダ・ヴィンチはった。だが、妹のカテリーナに命じて『カンゾネッタ・していたが、彼はもはや口もきけないほどの容態であ約束の日、ダ・ヴィンチが彼を訪ねると、楽器は完成鞭打ち、夜に日をついで、新しい楽器の製作に没頭。鞭打ち、代金を払って帰った。ピエトロは病弱の体に約束し、代金を払って帰った。ピエトロは病弱の体に対・ヴィンチは、その新しい楽器を買い取ることを その嫋嫋たる音色に耳を傾け、あらゆる想像を絶し

た最初のバイオリンの弦とともにとびさっていた。ロの方を振り返ると、若い芸術家の魂は、彼がつくっると同時に、ぷつりと切れてしまった。驚いてピエト だが、曲の最後で、第一弦が、甲だかい叫びをあげ 今まで人の耳の聞いたことのない調べと感じた。

#### ピア ノの魅力とは

約50グラムの鍵盤をたった1センチ押して音楽を奏でる。「押している」のに、「ひいている」とはこれいかに?

猫が載っても音が出る。それがピアノである。猫が載っても音が出る。それがピアノである。と呼ばれている。「ピアノにかかる弦の張力は20℃。すさまじい力である。ちなみに、チャイコフスキーの協奏曲では、実にる。ちなみに、チャイコフスキーの協奏曲では、実にる。ちなみに、チャイコフスキーの協奏曲では、実にる。ちなみに、チャイコフスキーの協奏曲では、実にる。ちなみに、チャイコフスキーの協奏曲では、実になったが弦を叩く。だから、「鍵盤打楽器」と呼ばれている。レアノにどれだけの負担がかかるかと思うと、メンテナンスの大切さがわかる。

の箱から 一はもちろんだが、和声変化がもたらす表情の光と影、げる公演が増えている。親しみやすい美しいメロディーの年は、ピアノの詩人といわれるショパンを取り上でもあるその音の行方を聴くのが、ピアノの魅力だ。打弦されたら減衰していくしかない、打楽器の宿命 箱から生み出される様々な「音」が、多くのことを情と気高さ、成熟と退廃、・・・。ピアノという魔法

でも、「フォルテ」ではなく、「ピアノ」なのである。も小さな音も表現できるところからついたのだそうだ。 ピアノ の正式名称は、「ピアノフォルテ」。 大きな音

感じてもらいたい。空間に、時間に浸かる。そんなひとときを持つ喜びを空間に、時間に浸かる。そんなひとときを持つ喜びを「ピアノ」の音に耳を澄ましてみる。音に身を委ねて、大きな音を出すジャンルの音楽に溢れている昨今、

### オペラの舞台裏

りうる。
りうる。
と代役の2人とも不調で歌えない最悪の事態も起こるのが一般的だ。だが、歌手も人間であるだけに、主の歌手にも、万一の病気や事故に備えて代役を準備するが、ラでは主役歌手はもちろんのこと、重要な脇役オペラでは主役歌手はもちろんのこと、重要な脇役

イツのバイロイト音楽祭で同じ役だった美人ソプラノーンのバイロイト音楽祭で同じ役だった美人ソプラノになっていたソプラノのアニヤ・ハルテロスと、が役に決まっていたソプラノのアニヤ・ハルテロスと、が役に決まっていたソプラノのアニヤ・ハルテロスと、できえ役が開幕前々日に風邪で歌えなくなってしまった。この時、最悪の事態が起きた。白鳥の騎士ローエングこの時、最悪の事態が起きた。白鳥の騎士ローエングニーンは、大力のバイロイト音楽祭で同じ役だった美人ソプラノ

とが起こりうるのである。華やかなオペラの裏では、想像もできないようなこ